

地域福祉活動職員の

福岡

ま な こ

社協活動前進のために

No.43 1998年 2月 発行 福岡県地域福祉活動職員連絡会 まなこ編集委員会 印刷 コロニー印刷

「社協に期待すること」

社会保障の構造が変わろうとしているいま、わたしたち地域福祉活動を中心になつて行う社協職員は何をなすべきでしょうか。その方向性を探るべく、今回は長い間にわたつて直方市社協福祉活動専門員として活躍された、高石伸人氏に社協への期待をお寄せ頂きました。

九州龍谷短期大学

九州龍谷短期大学

助教授 高石 伸人 氏

与えられたテーマには既に前提がある。筆者は社協への期待を捨てていない、期待して欲しい、期待してもらわなければ自分達の浮かぶ瀬がない、などの。従つて、ご要望にそつて、期待していないという結論にならないように話を進めてみようと思う。

I

「社協に期待すること」を述べるに当たつて、「誰が」あるいは「誰から」という、期待の主体をどこに求めるかで自ずと中味は違ふだろう。考えようによつては、その未だ不確定なスペースがあるところが社協の社協たる所以というのか、残された可能性の余地でもあろうか。

前号では、牧里毎治氏が社協生き残り論を、公的介護保険導入という政策動向とのからみで指摘されているところだが、政策主体から求められている社協の方向性については、既に諸氏が

うすうすであれ、日ごろ肌身にお感じのことと察せられる。実は、その「うすうす」さの感覚こそが、社協（職員）の軟弱さであり、付け入れられ易さであることも、少しは自責する必要があるのかも知れない。

これまで、例えば社協法制化の時点で、また「基本要項」の改訂が提起された折りに、私達はそのことの含む問題を、どれ程真摯に自らへの問いとして引き受けただろうか。そうした怠慢と、既成事実の積み重ねたことが今は、ツケとして回されているのではないのか。とすれば、この際に、まずこの間に政策主体の側が企図してきた「社協かくあるべき論」を検討しておかなければなるまい。

II

社会福祉政策の中で、施設福祉から地域福祉、在宅福祉への重心移動が強調されるようになる動きは、一九七九年の大平内閣の「新経済社会七ヶ年計画」の中で、「個人の自助努力と家庭や近隣、地域社会等の連帯を基礎としつつ、効率のよい適正な公的福祉を重点的に保障する」という、いわゆる

「日本型福祉社会構想」が発表された

あたりから加速してくる。一九八一年の「第二次臨時行政調査会」の答申では「活力ある福祉社会」という言葉が使われ、福祉問題対策への公的責任、負担の極小化や自助努力の強調、民間活力の利用や「上乗せ福祉」の見直しといった内容が盛り込まれた。その年「生活保護適正実施」という名目での「一二三号通知」が全国の市町村に出されて、「劣等処遇」の再強化が図られることになる。

翌年、医療費無料制の廃止につながる「老人保健法」が公布され、さらに翌八三年、中曽根内閣は「一九八〇年代経済社会の展望と指針」という閣議決定によつて、「在宅福祉を基本とした地域福祉の基礎づくり」をうたい、行財政改革の推進に踏み出した。奇しくも、その年に市町村社協が法制化されるのである。

さらに、一九八五年に福祉関連の補助金の一割カット実施。翌年には老人保健施設の制度化を目玉とした「老人保健法」の改定。そして一九八七年の「社会福祉士及び介護福祉士法」制定によつて医療費抑制をねらいとした在宅福祉推進のためのマンパワーの確保に大きく道が拓かれていく。

一九八九年には、福祉関係三審議会合同企画分科会が「今後の社会福祉のあり方について」を発表し、①サービスの多様化、②供給主体の多様化、③措置制度の見直し（福祉の市場化）を提起する。同じ年「高齢者保健福祉推

から、そのために「脳死」という死の定義が導かれたのだから、脳が機能していないと判断されたら（誰に!?）、ぼくもそしてあなたも部品品の集合体に過ぎないのだ。そのような人間資源論が人々の意識の座に腰をおろすことになれば、そのまなざしは、「無能（脳）な人間は、せめて死んで（部品として）有能な人の（構成する社会）のお役に立つべきである」と語るだろう。その向けられる目線の先には、知的障害者や痴呆性老人などの社会的弱者と言われる人たちがいる。

「人間の心臓を持つブタ」や「クロイン（コピー）羊」も出現している。遺伝子、DNAがほぼ完璧に解析できるまでに科学が進歩したいま、「障害児」の抹殺は、抹殺という実感を伴うことなく、この世から葬られ得るだろう。そしてやがて、「クロイン人間」が登場し、ぼくが死んでも、もう一人のぼくが生き続ける。いや生き続けさせるに値する人間のみ、コピーが作られることになるのだろう。ナチスの障害者やユダヤ人虐殺は、今日、周到に装いを凝らして、僕達の中に潜む優生思想をくすぐり、破滅への道に誘（いざな）いつつあるのではないか。

社会福祉協議会で働いた二十三年と九カ月の間、そして今も、ぼくが不十分ながらこだわりを続けているのは、「生命の平等な尊厳」ということだ。社協の役割に即して言い換えれば、「少数者」の側に立った問題提起と捉

えていただければ分かりやすいだろうか。

「国家は暴力装置である」とかいたのは大熊信行氏だったが、差別を支配の装置として維持する国の政策に追従していく限り、人間の解放は望むべくもない。せめて、これからは「人権」の擁護を目標にしていこうとするならば、「多数派社会のプレーキ役」を自ら任じて、舌を出し続けるというのにも不似合いではなさそうに思われるのだが。あなたVはいま、どのような問題意識に支えられて、日々の仕事を務めておられるか。

注1) 高石伸人「資格と人間関係」『社会臨床雑誌』第四巻 第二号、一九九六

注2) A・キングレル『ヒューマンボディ ショップ』化学同人



第5回 全国社協職員のつどい

in奈良

～人々と巡り会い福祉に

思いを寄せる社協マンの道～

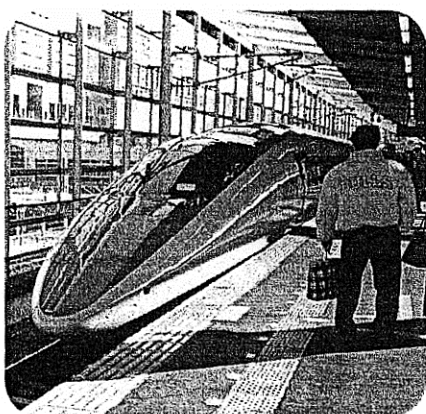
慕情奈良やまと編

まなこ編集委員

志摩町社協 加藤 博貴

今回、地職連の選抜隊として大先輩の若宮町社協の鈴木さんと、そして筑後社職連から八女市社協の高橋さんにとりあえずの僕で行ってきました。まなこ編集委員は、文章を書くことがないということに安心していましたが、今回つどいのレポートを書くはめに：シクシク。

まあー気を取り直して、皆さんに僕がとても楽しんだことを少しでも伝えられたら幸いです。それでは、緊急発信全国社協職員のつどい25時～眠らない街、いや夜は、眠る街々をお届けします。



女性の制服がとってもキュートでした。

それは、一本の電話から始まった。急に電話があった時は、「何でえ！ 沖縄か北海道じゃ……。まさか役員が奈良県やけん、こいつにでもいかせとけ！」って感じで決まったんじゃないの？と最初に思いました。おそらくそれは間違いないと思いますが、そこは、社協に入ってから2年が過ぎて自分も社協マン（？）らしさが身につく快く後日返事をいたしました。実は、参加するまで全国つて名がついているので沖縄・東京・北海道であるときは、いつてみたいなあーと常々思っていたんですが、このつどいは近畿圏でまわっているのを参加して初めて分かりました。（会長さん勉強不足でごめんさい）でも、やっぱりいくなら奈良県にと本当に思いながらつどいに参加させていただいたことを申し添えておきます。（マジですよ）

田舎者500系のぞみに乗る。

若宮町の鈴木さんの提案であり、この研修の目玉と言えるのが500系のぞみ号の乗車である。しかし、朝の6時半博多駅発は、鈴木さんの住んでいる所から遠く始発もなく、奥さんに車で送って頂いたそうです。(ちなみに私は、妻と子どもが屁こきながら寝ているのを横目に朝4時に起きて独り寂しく旅立ちました。八女市の高橋さんは、マイペースでゆっくりとした時間帯の新幹線で行かれました。)

二人は、早速500系の前の姿が拝みたくてカメラ片手に走って行きました。中は思ったより天井が低かったです。座席はゆったりとしていて乗りやすかったです。

形もカッコよく時速三〇〇キロの新幹線は快適で、車中では、鈴木さんから現在取り組んでいることや、社協マンとしてのおもしろさなど初めてお会いしたにもかかわらず丁寧に話していただいていた大変勉強になりました。

鈴木さんの一言

京都から近鉄に乗換え奈良県社会福祉総合センターがある畷傍御陵前駅で降りたところ、なんて静かでシンプルな作りの小さな駅と正直思ひ、きつとホームから改札抜けてすぐ階段がありスロープぐらいは付いているだろうと社協マンらしく車イスや高齢の方を気にしつつ辺りを見渡すとなんと！あーなじゃありませんかエレベーターが、小さな駅なのに上に作らず地下に改札

口を設けてあり全てにエレベーターが設置されていました。後で、お聞きすると社会福祉総合センターができたのでそれにあわせて作ったということ。鈴木さんが一言「春日市にはない!」。「えーそうなんですか?近藤さん」僕の心の叫び。

ドラゴンが出迎える!!

畷傍御陵前駅のエレベーターを地上に昇るとすくなく前に奈良県社会福祉総合センターが見えます。さっきの事もあり感心しながら歩いていくと突然!噴水の真ん中に龍が立っていて口から水を吐いているじゃありませんか。何で?あるのと疑問を持ちながらも少



点字ブロック見ればわかる!?

しドキドキしながら記念撮影をしまくりました。(お茶目な福岡県人)

するとその時、一人の気立ての良さそうなおばあちゃん(見た目)が龍の後ろを回って覗きすぎていく姿をみて、

自分もせっかくここまで来たのだから龍を見ながら前を通ろうとした瞬間!なんと水がかかってしまいました。(きつとおばあちゃんは、風が強い日は水がかかるを知っていたにちがいない)

前置きの終焉

もう、だいぶ前置きが長いので、これを読んでも人も少なくなってきたが、珍道中じゃないのでレポートに入りたいと思いますがその前に一つだけ我慢して読んでください。

八女市社協の高橋さんの謎!?

福岡県社協の研修会でよくみかける高橋さんは、年上のベテランさんで声すらかけにくいところがありました。一緒に部屋で年齢を聞いてびっくり!自分より2つ年下の26歳じゃないですか、しかも保父資格を持ちバイエル一〇〇番まで弾けるこの男、一体何者。さらにこの後の交流会でアルコールを飲めない彼が全国相手に年齢当てクイズをするなんて、この時点では、思ってもいかなかった二人であった。(僕は、ちよつぱりグシに使おうと思っただけ……。もう今回の研修会での収穫は、彼に知り合えたことですね)

料理が余って勿体ない?

いよいよメインの大交流会のはじまり、はじまり。さて、挨拶もしたかどうかで始まっ

たこの交流会(乾杯だけ覚えてい)「楽しかった」の一言。これは、すべてに共通することですが、とにかく苦しくない。(ネクタイしてるの福岡と北海道だけかと思っただほど)簡単に言えば、みんな、めっちゃアホやねん。いや、きつとアホがつくほど熱い思いを持った社協マン達だったんだろう。なぜなら料理がほとんど残るほど話に熱中してました。そして、二次会、三次会と夜はふけてゆくのでした。

後輩との出会い。その時ぼくは

つどいに参加して、一番うれしかったことは、サークル(大学)の後輩に出会えたことだった。長野県のどこの市町村社協にいたかは、風のたよりで聞いていたが、まさかここで会えるとは思っていませんでした。軽く抱きしめてやった(女の後輩だったから力強くなるだろう)。彼は、毎年つどいに参加しているらしく、つどいで出会った人達とネットワークを作り旅行や遊園地(?)にも行ったりしているらしい。しかし、彼は言った「もう、社協はやめました」なんでも、勤めていた社協に専門員として入ったが、行政の都合でコロコロと担当が変わることを甘んじて受入れる会長局長に嫌気がさして辞めたようだ。実際、自分も専門員から配食・デイの運転手にと簡単に変えられたらと思うと人ごとではない。それから彼は、社協はつぶれるとか、社協はこうあるべきとか語りは

じめたが、その言葉一つ一つに自分の夢や希望が含まれていて社会福祉協議会そのものに嫌気がさしたのではなく、自分の勤めていた社協体制の弱さに失望した様子だった。「肢体不自由児施設のソーシャルワーカーに転職してもつどいに毎年参加しますよ」と言っていた彼は、社協の夢限の可能性を信じている本当の社協マンに違いないと心でガンバレよ!とつぶやいた(その時ほくは、カラオケ本を握っていた)

とりあえず分科会をご紹介します

第一分科会 鈴木さん(若宮町) 参加

社協職員の甘えの構造

〜なんて君はそこにいるの〜

第二分科会

社協ワーカーの「ものさし」づくり

〜ダイアグラムで社協スキャン〜

第三分科会 加藤(志摩町) 参加

社協職員5年以下のつどい

〜あこがれを現実にする力、あなたのそれ以上を可能にしよう〜

第四分科会

情報活動に強くなろう!!

〜口コミからインターネットまで〜

第五分科会

社協のおもしろさ再発見!

〜社協の原点、魅力を再確認する〜

第六分科会 高橋さん(八女市) 参加

社協っていったい何?

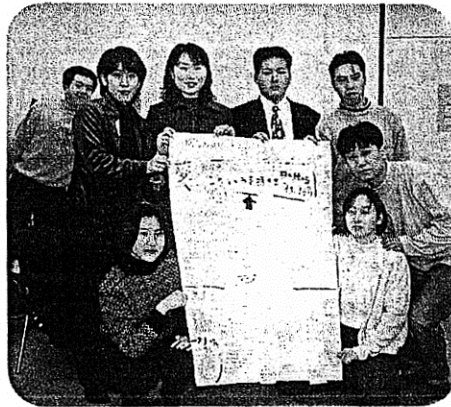
〜ひとりの住民として明日の社協を考

える〜

以上の六つですが、自分の分科会に

夢中になり、他は取材出来ず。どうしても知りたい方は、多分、報告書が来年までにできるので関コミから送ってもらってください。第四回は、一冊五百円でした。(なんや、「まなこ」で報告いらんやん)

ねるとん方式……ワクワク



みんなのせたぞー!!

自分がでた分科会ぐらひは、皆さんがほしい情報を届けたいと思っただけですが、なにしろゲーム方式で交流を深め、新しい出会いをつくりながらグループに分かれて未来の社協を語り合う、「愛」を育む秘密パーティー。地職連の皆さんごめんなさい、なんにもありません。仕事のことを忘れて本気で世間一般社協話(ある、ある、うちもある話)をしてしまいました。ただ一つみんなで確認したことは、プラス面は、地域、ボランティア、他との関係など社協の外にあり、マイナスマは、社協の中にあるということでした。

た。プラス面があるからこそがんばれる、地域にでること、住民に社協が見えること、住民サイドの社協等、その夢や熱い思いを持ちつづけること、好きだからこそその力、それは、テーマにあるゆとりを持つこと? いや、ゆとりがあるから正しい答えがでるとは限らないし、日々あわただしく過ぎていくなかにも納得できる時がある。この分科会は、情報を得て、地元社協に持ち帰る分科会というよりも、少しの夢と多くの現実を楽しく共有することでとても楽しく過ごし、また、がんばろうという気持ちになった分科会でした。(ところで、ねるとん方式は、どうなったの?)



本当楽しかったです。みんなありがとう。

パフォーマンスが大事!?

二日目の午後の講演は、社会就労センターたんぼの家の村上良雄施設長からの話をお聞きしました。「暮らし」「仕事」「遊び」「学び」という人間が

生きていくうえで、必要な条件をトータルして保障することをめざす「たんぼの家」は、福祉だけを問題にしているのではなく、自分たちが生活している地域社会全体を変えることに主眼を置いていた。その運動には一切妥協はない。障害者が作ったものだからと集めて売れば、レベルを低く見られる。それよりも、キラリ輝く個性をだして、モノ自体に付加価値をつける。そして、回りで支えるスタッフが最高の環境・超一級の舞台を用意して、そのことで世間に問い、認められることによつて社会に評価され地域を変えることにながるといふ。つまり、パフォーマンスがとても上手なのである。社協が何しているかわからない、行政と同じ様にみられる悩みをもつ社協にとつてパフォーマンス(人目を引く行為)は、ひとつのキーワードに思えた。



地域の人たちにアイデアがいっぱいあると熱く語る先生



おつかれさまでした。or(どちらか)全体にかたぐるしくない雰囲気をつどいでした。

祭りのあと

その日のうちに、福岡に帰ることに
なっていたので、いそいで電車に乗り、
奈良公園に向かいました。興福寺、東
大寺、奈良の大仏を通り過ぎ(?)鹿
とたわむれ(おねえちゃんがかつた)
お土産を買い込み新幹線に乗り込んだ。
博多に着いて、おましかねのギョーザ
とビールで乾杯、博多ラーメンを食べ
ながら今回の研修について、鈴木さん
と確認しあった。

「遠くていけないなら、近くに呼べ」

(あ、言ってしまった) 関西も元気や
けど、福岡も負けてない、負けてない、
きつとやれるよ前田さん(甘木市)。
あ、また言うてもうた、ごめんなさい。
最後に、行かせていただいた地職連の
皆さんと楽しませていただいた関西コ
ミュニティワーカーの皆さん、そして、
大変お世話になった若宮の鈴木さんと
八女の高橋さんに感謝申し上げます。

あとがき

しかせんべいを思い出の一つにと持
って帰りました。それを食べたうちの
社協のFさんが「なつかしい味がする
♡」と大変喜ばれていました。(彼女
の前世は、鹿にちがいない)

「関西の人は、
ほんまに元気で」

若宮町社協 鈴木 幸則

皆さんの代表として、奈良県橿原市
で行われた全国社協職員の集いに参加
させていただきました。

今回は、県内から3名が参加し、福
岡の恥をさらさないようにと心がけた
つもりですが、その珍道中とパフォー
マンスは、加藤君が紹介しているよう
に、少しインパクトを与えてしまっ
たようです。(来年参加される皆さん、
申し訳ありません。)

・すつこくええで「500系のぞみ」

ミーハーな私たちは、せっかく新幹
線に乗るのなら、今CMで流れている
流線型のかっこいい「500系のぞみ」
に乗ることにしました。その乗り心地
のよさ。「ただいま時速三〇〇kmで運
行中」という表示を見て「すつげー」
といいながら、京都までの旅を楽しみ
ました。

ところで、今回乗った「500系の
ぞみ」と従来の「のぞみ」は、各車両
のドアは狭く、車イスは通らないよう

でした。でも、中央近くの1つの車両
だけはドアが広く取ってあり、座席の
一部を取り外しての車イスの固定装置
や、ボタンによる自動ドアの車イス優
先トイレもありました。お堅い?JR
も段々とハンディーに対する対応が深
まっているようですね。

・分科会では理想の社協職員像を探る
私の入った分科会では、「社協職員
の甘えの構造」なんて君は、そこにい
るのか」をテーマに、理想の社協職員
像を探り、自分自身を見つめ直そうと
いうものでした。

理想の社協職員像?そんなもんを探
ってどうするの?という疑問を持ちな
がら入った第1分科会、そこには、関
西はもとより北海道、愛知、広島、鳥
取などから28名が参加しました。

生駒市社協の多田さんの、丁寧な司
会進行により、3つのグループに別れ、

「家族・友人」「住としての地域」「職
場の人間関係」「職場としての地域」
の4つの観点から、KJ法の手法で探
りました。その結果から見えた理想の
社協職員像とは、「家庭・職場・地域、
すべてにおいて、みんなの幸せを考え
て福祉を実践し、なおかつ情報収集と
勉強を怠らないで、積極的がんばる。
それでもストレスを抱えない、いつも
笑顔の社協マン。」

すごい。こういう人がいるのなら会っ
て見たい。でもこれ、裏を返せば、自
分に欠けている所が見えてくることに

なるのですよね。

じゃそのための対策は?みんなで考
えたのは、「家庭を犠牲にしない努力
をする。住んでいる地域では、職とし
て言っていることを実践する。職場で
は人間関係を大事にし、流動性を前提
に業務を分担して、常に向上心を持つ。
地域では、社協の顔となって、自立の
ための援助に徹し、地域に出ていける
職場作りとして、職員間の情報を共有
し、マニュアル化して柔軟に対応をす
る」そうだよね!と思える人も多いと
思います。でも、この事を日常業務の
繁忙に押しつぶされて、回避している
事が多いのです。「忙しい」この言葉
ですべてを片づけている。そこに甘え
の構造があり、「ゆとり」をなくす原
因にもなっている。じゃあこのままで
いいのか。社協の仲間内ならそれでも
いい。でも地域住民は、「自分の用が
足せるかどうか」で社協を判断する。

だから私たちは、「理想」に近づこう
という自己変革の目標を持ち、努力す
る必要がある。結論として、このこと
を共通認識として持って帰ることに
なるのですが、しかしながら、この周到
な仕掛けに、スタッフの皆さんの意気込
みのすごさを感じました。

・ほんまに関西の人は、元気で。

1日目の夜は、ホテルで交流会があ
り、その後、大会事務局から案内があ
った2次会へ出かけました。
なんとそこには、参加者の半数近い

70人ぐらゐが押し掛け、とりわけ関西地区の方が多く来ていました。店自体大きくはなかつたので、すぐに貸切の状態になり、男・女入り乱れて(乱交パーティーではないですが)あちこちで福祉論議に花が咲き、それぞれの思いをぶつつけあっていました。この光景、一昔前までには、福岡でもあつたような気がしますが、そのパワーのすごさ。「ほんまに関西の人は元氣やで」とつくづく感じました。

・社協職員に期待すること

2日目の全体会での「たんぼの家」施設長村上義雄氏の講演では、社協職員に期待する事として、「仕事は創り出すもの」「アイデアは地域から学ぶ」「多様さが必要」「委託体質から脱却を」「どちらに顔を向けるのか」という5つのキーワードが提示されました。最後に、松金功さんの「障害者に迷惑な社会」を紹介され、「これからは、自分たち自身で問題解決への自己決定をし、自分たちの生き方を選んでいく。そのような成熟した市民社会が求められている。相手の気持ちを理解する努力をつづけていかないと、市民社会はできない。社協にはいろいろなところで期待したいし、協働して手がけていきたい。」と話してありました。

・パワーを少し分けてもらった気が
今回の集いに参加し、関西の皆さんのパワーとインパクトの強さには、正

直なところびくりしました。そして、そのパワーを少し分けていただき、元氣になったような気がしています。最後に、地職連のご厚意により、すばらしい研修をさせていただいたことに厚く感謝申し上げます。



「第2回社会福祉協議会と介護保険セミナー」レポート

荻田町社協 福山直樹

このセミナーがあつたのは、昨年9月、すでにニュース性はないし、記憶も薄れているので、お話のあつた各氏の印象的な部分を掲載して、報告に代えたいと思います。

セミナーは、午前も午後も一方的な話のみで、とても疲れるものでした。トップバッターは全社協常務理事・松尾武昌氏

「地域福祉の中で、社協事業と介護保険の関係をどう整理していくのかが問われている。今までの経験を生かして事業を展開して欲しい」

(※この場合、展開する事業は介護サービスのことだと思えます。私は、今までの社協活動の経験が介護サービスに、どういふふうに生かされるのだろうか、と疑問に思いながら聞いていました。)

二人目は、厚生省介護保険準備室・佐藤信人氏

「地域福祉を担う社協にこそケアマネージメント機能の核を担ってほしい。保険サービスだけでなく、市町村サービスやボランティア、NPOなどトータルなサービスの構築をして欲しい。社協にはボランティア活動などインフォーマルな部分を含めたケアプランを期待します。」

(※ボランティア活動の主体は社協にあるとでも厚生省の方は思っているのでしょうか。こんな話をボラ連の役員会の中で話したら、どんな目に遭うかと想像するだけで私は背中がぞつとしました。)

三人目は、全社協地域福祉部長・和田敏明氏

「家事援助では経営が成り立たない。社協は寝たきり老人世帯などのニーズを深いところから顕在化していない。介護型ホームヘルプサービスの展開を積極的にして欲しい。」

(※さすがに厚生省の佐藤氏のボランティア発言には批判的でした。でも、社協経営路線一辺倒の話し方にはどおつと疲れを感じました。)

四人目は、シルバースービス振興会主席研究員・山崎敏氏

「企業は、社協を競争相手としてどう見ているのかと言うと、今のままでは全く怖くないと思つているところがほとんどなのようです。」

(※はい、その通りです)

五人目は割愛します。

六人目は、宝塚市社会福祉協議会在宅福祉課長・佐藤寿一氏

「利潤を追求する職場がいやで、社協に入った人間がほとんどなのに、その社協で利潤のことを考えなければならぬようになるとは……」

(※はい、同感です)

七人目も割愛します。

てなわけで、今回のセミナーは当然のことながら、介護保険漬けでした。現実的には避けて通れないことなので、全社協の意見も拝聴しながら、対応していくしかないのでしょうか、逆にこれまで以上に本来的な組織化活動の内容が問われることになると思います。

セミナー終了後、同行した県社協の勝野君とヘルパー連絡会会長の泊さんの三人で難波の「花月」横で念願のたこ焼きを食べました。これが気楽な旅行だったらなあーとしみじみ思つた次第です。(ここのたこ焼きはおいしいよ。ほんまでっせ)

